

今こそ みんなで学ぶ

ごみと資源



日々の暮らしで必ず発生する「ごみ」。

鈴鹿市では1年間に約62575トン（令和6年度）のごみが処理されています。それは工夫次第で大切な「資源」に変わります。

「これ、もしかしたら、資源になるかも？」

みなさん一人一人の小さな気づきが資源の源。

「混ぜればごみ、分ければ資源」です。

環境への負荷をできる限り軽減するために、ごみを正しく分別しましょう。

今月号の特集を参考に、美しい「鈴鹿市」を未来へ手渡しませんか。



簡単にできる 再資源化



「再資源化」と聞くと難しい印象を受けるかもしれませんが、決してそんなことはありません。ほんの少しの工夫で「ごみ」は「資源」になります。ここでは簡単にできる「再資源化」の代表的な事例をご紹介します。

Q プラスチックごみの汚れてピカピカにしないでいいけないの？

A ピカピカにまでしていただく必要はなく、袋に入れたときに、他のごみに汚れが移らない程度になれば大丈夫です。例えばお菓子の袋は、残りがすを払い、油や液体の汚れは、水ですすいだり、紙などでふき取ることで、プラスチックごみとして出すことができます。

Q ペットボトルってどうやって分別するの？

A ペットボトルは、キャップ・ラベル・ボトル本体の3つに分別します。キャップとラベルはプラスチックごみ、ボトル本体は資源ごみBとして出してください。また、スーパーなどの店頭回収を利用していただくことも有効な方法です。

正しい分別が再資源化率の向上につながります。社会情勢により資源不足が深刻化している今こそ、ごみと資源について見つめなおし、皆さんで協力してリサイクルを進めていきましょう。

びん

不燃物リサイクルセンターに集められたびんは、色別に再資源化工場に運ばれ、細かく砕いてガラスの原料にします(カレット化)。無色と茶色のカレットは、主にびんに再商品化されます。その他の色のカレットは、びん、舗装用骨材、グラスウールなどに再商品化されます。



資源ごみは身近なところで再商品化されています



ペットボトル

収集されたペットボトルは、不燃物リサイクルセンターで再資源化できない不適物を取り除いたあと、圧縮梱包して再資源化工場に運ばれます。ペットボトルは衣服の繊維や卵のパックなどに再商品化されるほか、近年では水平リサイクルによる飲料用再生ペットボトルとして再商品化(ボトルtoボトル)されています。



再資源化された
ペットボトル原料

圧縮梱包された
ペットボトル

プラスチックごみ

収集されたプラスチックごみは、不燃物リサイクルセンターで再資源化できない不適物を取り除いたあと、圧縮梱包して再資源化工場に運ばれます。プラスチックごみは物流用パレットなどのプラスチック製品のほか、製鉄原料(コークス)、プラスチック原料などに再商品化されます。



▲プラスチックごみの出し方・分け方

物流用パレット

コークス



圧縮梱包された
プラスチックごみ

不燃物リサイクルセンター

ながい ゆうすけ

所長 長井 優介

不燃物リサイクルセンターでは、収集されたごみをできる限り再資源化するため、不燃ごみについても破砕・分別処理を行い、金属類のごみを、鉄やアルミなど材質ごとに分けています。

市民の皆さんが、家庭ごみの分け方・出し方のルールを守っていただくことで、再資源化率がさらに上昇するとともに、安全に施設を稼働することができますので、ご協力をお願いします。



このベンチは、スプレー缶のキャップをリサイクルして再商品化されました!



不燃物リサイクルセンター・ 清掃センターからのお願い

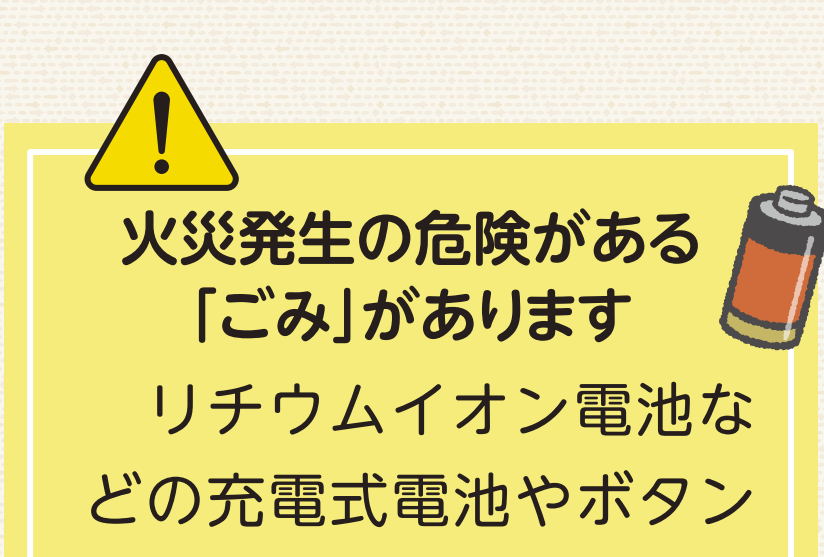
市民の方が、不燃物リサイクルセンター・清掃センターにごみを直接持ち込まれるケースが年々増加しており、施設内で渋滞が発生しています。施設の安全な運営のためにも、できる限り集積所を利用していただきますようお願いいたします。また、やむを得ず施設に直接ごみを持ち込まれる場合は、特に渋滞する月曜日を避けていただきますようお願いいたします。



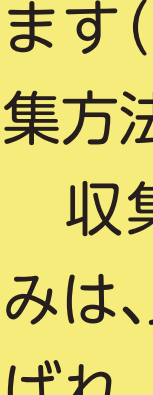
施設に集められたびん



施設内で行う手選別作業の様子



ラベルが貼られたままのペットボトルのよくない例



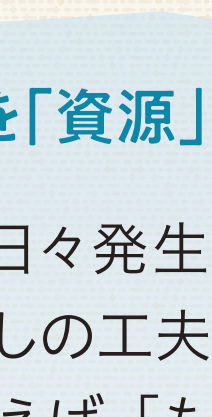
火災発生の危険がある 「ごみ」があります



リチウムイオン電池などの充電式電池やボタン電池、スプレー缶は、火災発生の危険があることから、安全に処理を行うために、分別の徹底をお願いします(令和7年8月から収集方法を変更しました)。

収集されたこれらのごみは、民間の処理施設に運ばれ、無害化・再生処理を行い、再資源化

されます。



▲家庭ごみの出し方・分け方

ごみを減らす生活 はじめませんか

ごみの減量化は、焼却時の二酸化炭素排出を抑え、環境への負担を減らすことができます。

例えば、日常生活で発生する生ごみは、約80%が水分であり、そのまま排出すると焼却時に多くの燃料が必要になります。そこで、生ごみを乾燥させたり、捨てる前にぎゅっと絞るなどのほんの少しの工夫で、ごみを減量することができます。そのほかにも、生ごみ処理機を活用する、食べきれないものはフードドライブ事業に提供するなど、ごみを減らす方法はたくさんあります。皆さんもぜひ実行してみてください。

私たちの力でごみを「資源」に

私たちの生活で日々発生するごみは、ほんの少しの工夫で資源になります。例えば、「もやせるごみ」は市内の公共施設の電力をつくり、「プラスチックごみ」や「びん・あきかん・ペットボトル」は新たな商品の材料となることで、地球環境を守っています。

正しくごみを分別することは、地球の未来を守る第一歩です。私たちが分別することで再資源化に結び付きます。そして、毎日ごみを収集したり、処理施設で作業するスタッフの方の力で、生活環境の保全や地球温暖化の抑制に繋がっています。資源の循環のために、

今一度ごみの出し方を確認しませんか。



鈴鹿市環境部長

さわ たく お
澤 卓 男

市公式LINEで各ごみの収集日をお知らせ！
ぜひ登録を！



今回の特集に関するご意見・ご感想
廃棄物対策課 ☎059-382-7609
☎059-382-2214
✉haikibutsutaisaku@city.suzuka.lg.jp
環境施設課 ☎059-327-6267
☎059-382-2214
✉kankyoshisetsu@city.suzuka.lg.jp